

長岡開府400年
ROOTS
400 次百年へ
新しい米百俵



創ろう。
可能性に
満ち溢れた未来を

集え！長岡の有志たち。
米百俵の精神を
引き継ぎ、次の百年へ
次代を担う長岡の子もたちが、郷土の
誇りを胸に、自らの力で未来を切り
拓き、創り出すための学びの場
「米百俵未来塾」。人材育成に
取り組む団体と企業、市民が
ひとつになり、新しい米百俵に
取り組めます。



150年の時を超えて
現代版「国漢学校」

米百俵未来塾開校

2019年7月開校
5月から塾生募集！



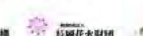
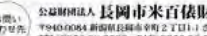
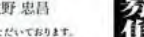
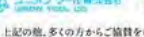
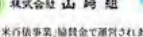
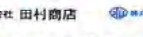
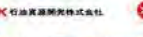
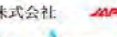
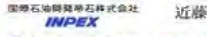
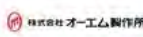
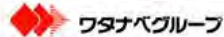
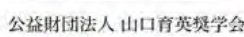
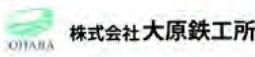
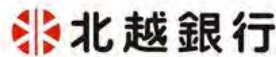
描こう。
視野を広げ
夢のキャンパスに



学ぼう。
郷土・長岡の
誇りを胸に



私たちは「米百俵未来塾」を共に盛り上げ、応援しています。



本気で本物で

米百俵未熟は、小林虎三郎が創設に尽力した国漢学校の「現代版」と銘打つ。2018年に新潟開府400年の節目を迎え、新たな100年を見据え、人材育成をしようと、長岡市などをつくる記念事業実行委員会が協賛金を募った。

市内の企業や個人から300件を超える協賛があった。託された長岡市米百俵財団が、人材育成事業に取り組み市内の団体と協力し、芸術やスポーツ、ITなど多岐にわたる分野を一連の流れで学べる未来塾を企画した。

塾長には、国内外の国際協力活動に参加し、長岡市国際交流センターを長を務める羽賀友信さんが就任。国際交流や芸術振興などに携わる8団体が、それぞれの得意分野を生かした講座を展開する。

長岡市芸術文化振興財団は、俳優の渡辺徹さんを講師に招き、演劇ワークショップを実施する。顔や渡辺さんの講話を通して表現

芸術、IT、スポーツ… 多彩な分野学べる講座

小4～中3対象、全9回 5月募集

方法などを学び、コミュニケーション能力や創造力を高めてもらう狙いがある。

長岡市スポーツ協会は、陸上男子4000以降書の日本記録保持者で五輪に3大会連続出場し、実業家としても活躍する為末大さんを講師とする。スポーツで得た経験を起業や経営にどのように生かしているのかなどを語り、受講生と意見を交換する。

長岡花火財団はコンピュータを使い、オリジナルの花火をデザインしてもらい、考案した花火は2020年に打ち上げられる予定だ。

山の暮らし再生機構は、川口地域でアユの串打ちやのつべなど郷土料理作りの体験会を開き、中山間地域で受け継がれてきた食文化や知恵を伝える。

受講生は50人程度。市内の小学4年～中学3年を5月に募集する。講座は7、12月の全9回。受講料は無料。原則として全講座への出席が求められる。



小林虎三郎

もままならないほど困窮し、69年、現在の長岡市四郎丸4にある昌福寺の本堂を仮校舎として国漢学校が開校。70年に支藩の三根山藩(新潟市西蒲区)から百俵の義援米が贈られたが、虎三郎らは米を分配せず売却し、資金を国漢学校の書籍購入などに充てた。

同年には現在の長岡市坂之上町に新校舎が設立され、藩士の子弟だけでなく、町民や農民の子ともらも身分に関係なく入学を許可された。多くの藩校が漢学を中心とした教育だったが、対し、国漢学校では日本史や国学、地理、物理、医学なども教えた。

国漢学校は70年の藩藩ととも、分置長岡小学校に

義援米を教育資金に 戊辰戦争後、長岡藩が決断

名を変えた。しかし、人づかりを重んずる国漢学校の流れをくむ学校が数多く設立され、外交官で漢学者の堀口九萬一や連合艦隊司令長官山本五十六ら多くの偉人を輩出した。

この故事を作家山本有三が戯曲「米百俵」として書き下ろし、1943年出版された。戯曲はベストセラーとなり、その後、歌舞伎として上演された。2001年には小泉純一郎首相が所信表明演説で米百俵の精神を引用し、一躍全国に広まった。

長岡市では現在も米百俵の精神を受け継ぐと、国漢学校の流れをくむ阪之上小(今朝白)の児童が故事を英語劇にして発表している。時代行列などを通して米百俵の精神を伝える「米百俵まつり」といった催しも開かれている。

大学進学や海外留学を希望する生徒を対象にした奨学金制度の整備や、姉妹都市の米ハワイ州ホノルル市の中学生派遣事業など、志を持った若者が日本でも、そして世界で学び続けられる環境づくりも進んでいる。

「米百俵」の由来



食えないからこそ、教育を。人材育成の大切さを伝える米百俵の故事は、150年ほど前の長岡で生まれた。説いたのは長岡藩大参事の小林虎三郎。教育が人々の暮らしや国の豊かさを左右するという教育論を提論としていた。

1868年に長岡藩は戊辰戦争で敗れ、まちは焼け野原となった。人々は食事

米百俵関連の歴史	
1859年	小林虎三郎が教育論「興学私議」をまとめる
1868年	長岡藩が戊辰戦争で明治新政府軍に敗れる
1869年	昌福寺の本堂を仮校舎として国漢学校が開校
1870年	三根山藩から義援米として米百俵が届く
同年	国漢学校の仮校舎が長岡市坂之上町に完成
同年	虎藩によって国漢学校が分置長岡小学校となる
1877年	小林虎三郎が死去
1943年	山本有三の戯曲「米百俵」が刊行される
1979年	米百俵が歌舞伎化され、歌舞伎座で上演
1998年	ドナルド・キーンさんが米百俵の戯曲を英訳
2001年	小泉純一郎首相が所信表明演説で米百俵の精神を引用



米百俵の精神を伝える阪之上小の英語劇=長岡市の長岡リリックホール



大原興人さん

協賛金集めに尽力 大原興人さん(大原鉄工所社長)

チャレンジ精神高めて

り、多くの人に関心を持ってもらった。

時代の潮流はグローバル化とIT化だ。未来塾では、国際交流やプログラミングに触れることができる。多方面で活躍する人と接することで、好奇心、チャレンジ精神を高め、「この道のプロになろう」という志を持ってもらいたい。

今後、市内の3大学1高専との連携などを通じて未来塾を発展させていきたいと思う。子どもたちが長岡で夢を見つけて実現し、将来的には長岡に戻って地元貢献してくれたい。

人材を育てる

米百俵未来塾 長岡で7月開講

長岡藩大参事の小林虎三郎が人材育成の尊さを説いた「米百俵」の精神を受け継ぎ、子どもたちに芸術や文化、スポーツについて学ぶ場を提供する連続講座「米百俵未来塾」が7月、長岡市で開講する。第一線で活躍する俳優やスポーツ選手らを講師に迎

演劇ワークショップ講師 渡辺徹さん(俳優)

未来塾で演劇のワークショップの講師を務める俳優の渡辺徹さん(57)は2015年から、長岡市で演劇の表現方法などを指導している。参加者同士が協力して寸劇を作る場面も多い。「羞恥心を捨てて」。優しく見守りながら声を掛け、自主性を引き出すそうとしている。

「デジタル時代は、あらゆるものが無駄を省いて便利になっている一方で、情報過多のように見える」と指摘する。会員制交流サイト(SNS)を使えば簡単にコミュニケーションを取れるが、本当に意思疎通が図れているのか疑問を感じている。

演劇は正反対のアナログだ。「汗が飛んだり、人のぬくもりが感じられる。演劇を通じ、

「子ども自身が興味関心を持って学び、育っていくことが大切だと考えている。その子が面白いと思っただけで、大人に期待は大きい。「若者と関わる機会を大切にしてください。講師の機会をもらえてうれしい」とほほえむ。

待は大きい。「若者と関わる機会を大切にしてください。講師の機会をもらえてうれしい」とほほえむ。

「面白い」引き出したい



演劇ワークショップで講師を務める渡辺徹さん。長岡市での指導は4年目になった。長岡リリックホール

演劇ワークショップを企画 神林茂さん(長岡市文化振興財団理事長)



神林茂さん

米百俵塾で取り組む渡辺徹さんの演劇ワークショップは、子どもたちの新たな可能性を引き出すコミュニケーション教育だ。現代のグローバル社会において、日本の企業はコミュニケーション能力が弱いといわれている。ワークショップで、人と触れ合うことの大切さを分かってくれと思う。

人とのつながり深めよう

財団が23年間培ってきた音楽や芸術の分野で、子どもたちの成長に少しでも寄与できることをうれしく思う。芸術家をつくるためではなく、相手を理解して自分を高めるという目的で、多くの人材育成事業に取り組んできた。

音楽や芸術は単に鑑賞するだけでなく、福祉や医療といった観点でも効果が見込まれている。演劇のワークショップでは、コミュニケーション能力を高める、人とのつながりを深めるという観点でアプローチしていきたい。

米百俵未来塾塾長 羽賀友信さん



100年先を見据えた人材育成を目標に掲げる米百俵未来塾。故事の精神がどう息づき、子どもたちの能力開発にどのような役割を果たすのか。塾長を務める羽賀友信さん(68)に聞いた。

「米百俵未来塾への思いを聞かせてください。私は世界各地で仕事をしていた。たくさんの方に会った。多様な価値観や生き方を学んだ。今度は塾長として子どもたちに学ぶ場を提供し、これまで学ばせてもらった恩返しをした」

困難をプラスに変えて

塾でどう生かされますか。

「米百俵の精神は廃虚となった長岡のまちで、創えという苦しい状況の中で生まれた。多様な人材を育成することこそが、危機管理になる。当時の人は知っていた。危機意識は人を未来志向にする。できない理由ではなく、どうしたらできるかを考え、困難をプラスに変えてもらいたい」

「長岡は生涯学び続けるまちだ。教育には家庭と学校、社会の三つの場があるが、米百俵の精神に基づき、三つの場をつないだ教育を実施したい」

「知識は道具であって、使う人間次第でいい方向にも悪い方向にも使われる。どう使えるかを考える。どう使われるかを考える。実践的な学びが求められる。子どもたちの可能性を引き出し、時代を超えて長岡を元気にできる人を育成できたらうれしい」

はが・ともふ。1950年長岡市生まれ。日本獣医師会大卒。約70カ国を訪ね、1988年から国際協力機構(JICA)カンボジア難民救援医療チームに参加。紛争地や災害被災地など国内外で人道支援を続ける。長岡市国際交流センター長、まちなかキャンパス長岡学長。

長岡市米百俵財団理事長 牧野忠昌さん



未来塾を企画する長岡市米百俵財団理事長で長岡藩牧野家17代当主の牧野忠昌さん(77)は、長岡の歴史の中で受け継がれてきた米百俵の精神を市民が理解してくれたと受け止める。「長岡のため、日本のため、そして国際社会のために活躍できる人材を育てたい」と意気込む。

長岡藩は藩校を設立し、武士の教育に力を入れた。人を育てたからこそ、牧野家は大きな施策を実行できたという。「武士だけだなく、国民たちも人づくりに大切さを理解していたはずだ」と推し量る。

連合艦隊司令長官の山本五十六ら多くの偉人を輩出し、各分野をリードした実績があるか

世界や地元発展の力に

「未来塾を通して、子どもたちが未来を切り開いてくれたらうれしい」と話す牧野忠昌さん。長岡市のさいわいプラザ

現在の教育は、知識を詰め込む型が多いと感じている。江戸時代の寺子屋では子どもたちが自らの能力に合った事柄の学習に努め、その道のエキスパートになったという。未来塾でも、いろいろな分野に触れ、勉強を続けたいと思えることや、夢を自発的に見つけてもらえたらうれしい」と語る。

国漢学校の創設から今年で150年になる。「現代版国漢学校で、子どもたちが夢の実現に向けて行動を起こし、将来は長岡の誇りを胸に、地元の発展の力になってくれたらいい」と願いを込めた。